

## お経について(その6)

## お経はお釈迦様からの贈り物

通夜や葬儀、法事で読まれるお経。インドで生まれて2500年もの時が経っています。これほど長い間、人々が信じ伝えてきたということは、多くの方がこの教えに助けられてきた証ともいえます。

お釈迦様は35歳で仏の悟りをひらかれ、80歳でお亡くなりになるまでの45年間、教えを説かれました。これを今日、仏教といえます。

しかしお釈迦様は、一切ご自身で記録を残されませんでした。それが今日「お経」の形で教えが残っているのは、お釈迦様がお亡くなりになった後、高い悟りをひらいた五百人のお弟子たちが集まり、お釈迦様の教えを後の人たちのために残そうと、まず代表の一人がお釈迦様のご説法を「このように私は聞きました」と語り、その内容に間違いのないか五百人で徹底討議して、全員一致した時だけ、書記が記録していったと伝えられています。

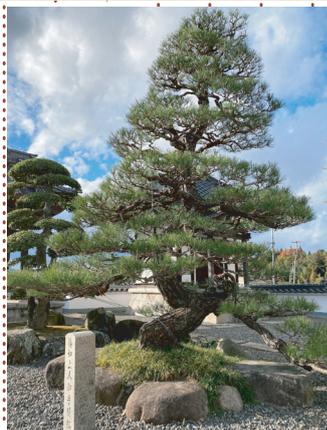
お釈迦様の説かれた教えの記録を「お経」と言い、「如是我聞(によぜがもん)(是くの如く我聞く)」で始まっているのはそのためです。

お釈迦様が45年間、説かれた教えのすべては、お経に書き残されています。

## ブッダガヤ(お釈迦様が悟りを開いた場所)



勝如上人御手植松



現在のお手植え松

## 住職レター

毎年、善教寺報恩講の前に、勝如上人御手植松を剪定してもらいます。善教寺の大切な年中行事であり、この剪定作業を見ると、報恩講の季節だなと感じます。この御手植え松は、昭和三十二年五月三十日、勝如上人(大谷光照本願寺第二十三代門主)が善教寺へご巡教に来られた時、植樹されました。おそらく、ご巡教のハイライトだったのでしよう。

祖母が生前中、この勝如上人御手植松の前を通るたびに、当時のご門主がご巡教に来られた時を述懐しておりました。それだけ、祖母の心に刻まれた、尊い思い出だったのでしよう。

当時を知る年配の方も、時折、この勝如上人御手植松を懐かしんで下さいます。しかし、今から約六十四年も前のこと。さすがに、覚えておられる方は少なくなりました。有り難い事に、今でもこうして立派に、御手植え松が、ご参拝者をお迎えして下さいます。